

## 評価委員会総合評価

研究課題名：火山活動の監視・予測に関する研究

評価委員

委員長：小泉尚嗣

委員：岩崎俊樹、佐竹健治、関口渉次、泊次郎、渡辺秀文

評価年月日：平成30年11月26日

### 1. 総合評価

- (1) 実施の可否  可  否  
(2) 修正の必要の有無  修正の必要あり  修正の必要なし

### 2. 総合所見

火山噴火による災害の軽減に対する国民の関心・期待は高く、レーダー監視による噴煙の即時的な把握、衛星 SAR や GNSS 観測における対流圏遅延補正、噴煙の移流拡散モデルと火山灰データ同化システムの開発など、気象研究所の強みを生かした計画となっており、気象研究所が取り組むべき研究課題である。

本研究は、各副課題を関連付けた統合的な計画であり、多種類の火山に対して多様な手法によって、それぞれ適切な目標、目的及び進め方で研究を実施することになっており、その成果が十分期待される。

なお、研究の実施にあたっては、以下の点について留意して進めて欲しい。

- ・副課題1の衛星 SAR の気象モデルによる補正については、火山のみならず地震の地殻変動においても重要なので、成果（プログラム）は広く共有していただきたい。
- ・副課題2及び副課題3については、気象研究所・気象庁内外の他の研究グループとの十分な連携を行って、研究を進めて欲しい。
- ・近い将来の噴火が確実視されている伊豆大島については、マグマ蓄積から噴火に至る過程を観測する大きな機会であり、この機会を逃すことなく、有効なデータの取得と、準備過程の全容を表現する物理モデルの開発につなげてほしい。
- ・研究者の専門分野が多様であるため、相互のコミュニケーションを大切に研究を遂行していただきたい。
- ・火山ガス観測を火山活動評価に活かすためには、マグマや水蒸気の蓄積に伴

って火山ガスの成分がどのように変動するのかを説明するモデル（仮説）も必要だと思う。観測と並行してモデル作りも進めて欲しい。

- 火山灰の飛散予測は、火山と大気輸送の両方を所掌する気象庁の特徴を生かし予測技術を高めていただきたい。